

第24回区民車座集会意見交換内容（高津区）

- 1 開催日時 平成28年10月6日（木） 午後2時30分から午後3時30分まで
- 2 場 所 市立高津高等学校・旧体育館
- 3 参加者等 参加者8名（生徒）、傍聴者約260名（生徒）、7名（一般） 合計275名

<開会>

司会：それでは、定刻となりましたので、ただいまから第24回区民車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めます高津区役所の筒井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、「市長と語ろう！地域づくり。何ができるか、何をしたいのか、何を期待するか」と題しまして、高津高等学校3年生の生徒の皆さんとまちづくりについて意見交換を行っていきたいと思います。

それでは、初めに、行政からの出席者を御紹介いたします。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：山田祥司高津区長でございます。

司会：それでは、福田市長から一言御挨拶を申し上げます。

市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、こんにちは。今日は、この高津高校で車座集会ということで楽しみにやってきました。

市長に就任して3年になりますけれども、就任して以来、各区を回って、毎月、テーマを全く決めずに、どなたでもお越しく下さいというふうにやったり、あるいは、時にはテーマを決めて、そのテーマについて、子育てについて話しましょうとかといたりしているんですが、今日は、高校生と初めてということで非常に楽しみにしております。ぜひ、有意義なディスカッションができることを楽しみにしています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

<意見交換>

司会：それでは、早速、生徒の皆さんとの意見交換に入っていきます。

進め方ですが、それぞれ3分程度で発表していただいた後、市長から感想や質問等を行いますのでよろしくお願いいたします。

残り30秒になりましたら、このような表示をさせていただきますので、あらかじめ御了承ください。

それでは、初めに、有村悟さん、発表をお願いいたします。

有村さん：私は、初めて国政選挙に参加して思ったことを話したいと思います。

私は、夏に誕生日を迎え選挙権を得ました。最初は実感なんてまるでなくて、これからの国を将来を決める大事な権利を得た実感は、とてもあっさりしていたのを覚えています。ですが、投票所入場券が家に届くと、自分が有権者であったことを感じられ、誰に投票するか決めなければいけないこと。投票用紙に何を記

入するのか、やり方を知っておかなければいけないことなど、やるのがたくさんあって、使命感に駆り立てられたのを覚えています。ですが、同時に、自分がきちんと投票できるのか。しっかりしてやれるのかなど不安もやってきました。

投票日になり、私は、朝早くから投票所に向かいました。早い時間に行ったからかもしれませんが、私が思っているよりも人が少なく、すぐに投票所内に入ることができました。学校の授業で投票の大切さや、やり方は学んでいましたし、何より職員の方々が丁寧に教えてくださったのでスムーズに終わることができました。とても安心したのを覚えています。私が思っていたよりも投票そのものは簡単でした。期日前投票で参加することもできるし、投票所が近いので時間もとりません。これなら選挙に毎回参加するのも楽だなと思いました。

ですが、こうして振り返ってみると、大変なこともありました。それは、誰に投票したらよいのかです。自分にとってためになるようなことで将来を任せられる人を選ぶべきなんですが、たくさんの人、たくさんの方、何から見て、何をポイントにするのかがよくわかりません。学校の先生に誰に投票するのか参考にしようと思って聞こうとしていたのですが、公務員の方々は選挙に影響を及ぼすようなことを教えることは禁止されているようで、答えはいただけませんでした。身近な大人から答えを聞けないのが、とても困りました。誰に投票するのか選ぶのはとても悩んだことを覚えています。教えることが禁止なのは仕方ないことだと思いますが、初めて選挙をする私としては、人や政党を選ぶとき何に注目したらよいのか、どんなことを考えたらよいのかをもっと詳しく授業などを通して教えていただきたいかったです。

また、情けない話ですが、家に届いた選挙公報を参考にしようと思って見たのですが、正直、何を書いてあるかわからず、初めて見る人にもわかりやすい文章や構成にしてほしいなと思いました。

例えば、チャート別に書いてあるとか、文じゃなくて表や絵を使ってみたりとかされてみたりしたらもうちょっと見やすかったんじゃないかなと思います。次回の選挙では、そんなに悩むことなく、自分の思ったとおりに投票できるように勉強していきたいと思います。

以上です。

市長：有村さん、ありがとうございました。

18歳になったということで、この中で18歳の方ってどのくらいいらっしゃいますか。手を挙げてもらっていいですか。この中で、投票に行ったよという人はそのまま手を挙げていてください。

結構いますね。うれしいですね。ありがとうございます。政令指定都市って、今、川崎市も同じように政令指定都市で、全国20市あります。20市の中で18歳の投票率が一番高かったのは実は川崎市でした。すごくうれしいニュースだと思いました。有村さんも投票に行っていていただいて本当にうれしいなと思います。

その際に、わからなかったことが多かったというふうなことですね。これは、選んでもらう側、私もそうですけども、議員だとか、あるいは首長だとか、その政治に携わっている者が、どれだけわかりやすく有権者の皆さんにこういうことを自分たちはやりたいんですということを説明することは、とても大切なことですし、有村さんが指摘されたように選挙公報というのがありますけども、あの中で自分のやりたいことをずっと書くというのは、ほぼあの面積では不可能ですね。

ですから、インターネットが選挙に活用していいよと去年、法律が変わって（※注1）、これから使えるようになったので、ぜひですね、各候補者だとか、政党だとかというような、自分の思っている政策と一致しているのかなという、そのチェックをしてもらう。この作業をしてもらうことがとても大事だと思います。これは、候補者だけじゃなくて、いろんなメディアがマニフェストというか、政策を比較するサイトというのは結構あります。今年の参議院選挙も、例えば、ヤフーですとか、それぞれのいろんな、私が所属していた早稲田大学マニフェスト研究所というところもそうですけれども、いろんなインターネットのサイトで各

政党ごとに、こんなことを、例えば、経済政策はこんなことを言っていますとか、子育て分野はこういう政策を書いていますという、そういう比較をしています。場合によっては、自分の思っていることをボタンでぽちぽち、ぽちぽちやっていると、あなたに近い政党はこの政党ですよということをアドバイスしてくれるサイトもあります。ですから、こういうこともぜひネットなんかで見てもらおうと、皆さんネットで、携帯電話とかいろんなところで使える世代ですから、そんなことも参考にさせていただければなというふうに思っています。

18歳になり投票してもらうことも大切だけでも、実は、20代、30代の投票率、40代を含めて、皆さん18歳よりも投票率低かったんですね。これは、本当に残念なことです。18歳で子供たち、子供たちというレベルじゃないね。投票人、有権者ですから、18歳の人たちに投票行ってくれ、投票行ってくれと言う前に、まずは親が行ってくれというふうなことを、この前も記者会見のときに言ったんですけどね。ぜひ、そういうことを、やはり大人を突き上げるように、行動を起こしてもらえると僕にとっても非常にありがたいなと。日本の民主主義にとってもありがたいことだと思います。ありがとうございます。

(※注1) インターネットの選挙運動への解禁は、正しくは平成25年度からです。

有村さん：ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

続きまして、生鷹天さん、発表をお願いいたします。

生鷹さん：今回、僕が、焦点に挙げたのは、高津区の商業の中心である溝口です。今では、区民のみならず区外の人々からもなれ親しまれている町です。そんなにぎわいを見せている溝口ですが、その一方で改善すべき点も残っていると僕は考えています。そこで、今回は、3つの課題点にまとめてみました。

まず、最初に、1つ目は、交通便についてです。その中でも道路の狭さと駐輪場の確保です。近年、増加傾向にあるここ周辺の人口や買い物客などに伴い、より一層、改善すべき点だと思います。具体的な場所を挙げると、旧マルエツ前の道路やマルイ駐輪場前の道路、ドン・キホーテから洋服の青山間の道路です。このことについて市長さんはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

次に、2つ目です。2つ目は、災害面についてです。今のところは溝口周辺で壊滅的な災害をもたらしてはいないですが、今後、そのようなことが起こり得る可能性はあるのでしょうか。たとえなかったとしても溝口の町の安全を確保するために防災対策は現時点で備わっているのでしょうか。具体的に火災や地震、土砂や洪水などの対応です。

最後に3つ目です。3つ目は、今後の溝口のビジョンについてです。ちなみに、私が一番気になっている話題でもあります。先ほども言いましたとおり、現在の溝口は高津区の商業の中心の町であり、若者層やファミリー層、シニア層など幅広い世代が集まっているということが強みだと思います。また、交通網の面で、電車では東急田園都市線、大井町線、JR南武線、バスでは、市バスや東急バスと交通手段が多く、とても利便性が高いところも特徴的です。ぜひ、これらの強みを生かしたまちづくりにも取り組んでいただきたいです。

ちなみに僕が考える溝口のビジョンは、行事や小学生など小さい子供たちをターゲットにした伸び伸びと遊べる公園を設け、そして、緑化政策をもっと取り入れ、省エネや人々が緑に囲まれた憩いの場を設ける、そのような環境都市をつくるのが私の理想であります。

市長さんは、今後の溝口活性化のために何か予定、計画していることはありますか。もし、あれば、ぜひお伺いしたいです。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

市長：いや、生鷹さん、立派です。びっくりしました。あちらに市議会議員さん、お二人傍聴に来られてますけども、議員さんたちもびっくりしたんじゃないかなと思います。いつもありがとうございます。

1点目は道路、2点目が災害、それから溝口のビジョンというところでしたけども、まず、道路は、都市計画道路という、いわゆる川崎市が道路をどういうふうな予定でつくりますよというふうなのを計画をつかって、それを決定して、そして整備していくという、そういう段取りがあります。川崎市全体では、このつくりますよという計画をつかって実際にできているのって大体7割ぐらいです。高津区に関してですね、全市平均よりも少し、60%強ということで、まだまだ進捗はおくれているところがあります。でも、本当にこうやって人口も増えてますから、あるいはもうちょっとこういうところを便利にしたほうがいい。あるいはもっとここを古くなっているから直したほうがいいというふうな御要望は本当に全市的に物すごい数あります。多分、高津区の例えば道路公園センターというところが、そういったところ、高津区内の道路についていろんな市民の皆さんから御要望いただきますけども、これ恐らく1年間で4,000~5,000件は優にいつているんじゃないかなと思いますね。（※注2）例えば公園はこうしたほうがいい、道路はここは補修したほうがいいですよというふうなそういったお問い合わせをいただく。その中でどうやって優先順位をつけて、皆さんからお預かりしている大切な税金ですから、どこが本当に一番危ないかなとか、あるいはどこを本当に大きく整備していくかなといった優先順位をつけて今やっているところです。

高津区、特に、今、生鷹さん言っていた溝口というのはなかなか狭い道というふうなのが多いですからね。そういった意味で災害時になると、ああいう細い道というのは建物が転倒してきて倒壊してきたりという危険性があるので、本当にすごく課題の多いエリアだというふうには思っています。これ先ほども申し上げたようにですね、どこが優先順位かということは、優先順位つけて順次やっているということで御理解をいただきたいなというふうに思っています。

災害の問題については、本当にこの前も熊本地震が大きな地震があったところで、30年以内に首都直下でマグニチュード7ぐらいというふうなのは大体、物すごい確率で起こるというふうに言われているので、はっきり言って今日起こってもおかしくないわけですね。ですから、そのためには、実は、ハードとソフト両方の対策が必要だと思っています。ハードというのは、例えば、建物が倒壊しないように、例えば、倒壊防止の整備しましょうねと。それについて個人のお宅でも市は補助金出してやりますよとかというふうな話もあるんですが、それだけではやっぱり間に合わないんですよ。まずは、自分の命は自分で守るというふうなそういった建物をどうにかするというよりも自分の行動、意識を変えていくということがやっぱり一番大切なことだというふうに思いますから、ハードとソフト両面でやっていかなきゃいけないというふうに思っています。

例えば、建物の耐震だけではないですけども、今、川崎市でいろんな災害用備蓄ってやっています。今どのぐらい皆さん、備蓄数あると思いますか、何万人分ぐらいあると思いますか。今、148万人の人口ですけど、今、13万人分の備蓄というふうなのをいろんなところに置いています。こうやって市で備蓄も持っていますけども、しかし、市の備蓄じゃなくて自分たちの家でまず、水、食べ物、こういったものを用意してください。市で水、食べ物、どうにかなるだろうというふうに、水もどうにかなるだろうというふうに思うんじゃないくて、まず、自分の命は自分たちで守るという、その意識が一番大切だと思いますので、そういったところにも今日たくさんいらっしゃるの、ぜひ自分の家に帰ってそういったところをチェックしてもらいたいなと思います。

それから、溝口のビジョンというふうな発想が非常に大きなテーマだと思います。緑を増やして公園を子供たちの遊びやすい空間をつくる、すばらしいことだと思います。溝口というか、高津区は、非常に昔から

歴史のある町です。ニヶ領用水もそうですし、いろんなところで文化だとか歴史だとか豊かなところですから、そういったものを生かしたまちづくりというのは、今、高津区でも進めていますけども、こういった何か新しいものを持ってくるんじゃないかと、今まで持っていたものというのをどうやって生かしてつくっていくか。活用していくかという視点が、僕は、重要じゃないかなというふうに思っています。

川崎にですね、住み続けたいなというふうに思っている川崎市民の方って、今、72%の方が住み続けたいというふうに言っています。これは、過去最高で多い。たくさん。うれしいことです。でもね、最大の理由は何かといったら便利だからと、この町、便利。東京に出るのも便利、横浜に行くのも便利、通勤に便利、そういうのがあるかもしれません。便利だけでは本当に暮らしやすい町か、住み続けたい町かといったらそうではないですね。やっぱり今言ったような、言われているんですね。緑があって、子育てしやすいとか、ここにいるの楽しいなという、そういう何ていうか文化的なことということがとても大事だというふうに思います。そんなことを行政がつくるというよりも、市民の皆さんと一緒につくっていくという、そういう視点が、僕、大事だと思うので、ぜひ、高校生だからということじゃなくて、もう、ぜひ、区役所にいろんな会議もやっていますから、参加してもらおうとありがたいなと思います。

随分、長くなりました。ごめんなさい。

(※注2) 高津区内の道路についての御要望等は、正しくは1年間で約3,000件です。

生鷹さん：ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

続きまして、上條美衣さん、発表をよろしく願いいたします。

上條さん：音楽の町、川崎というものがあるにもかかわらず余り知られていません。川崎市民なら知っている人も多いかと思いますが、市外に住んでる人となると非常に少ないと思います。なので、この川崎市の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいと考えています。そこで、私は、その解決策として、せっかく川崎市には市歌や市民の歌があるのだから、市民の人たちがもっと歌えるようにするために小学校の授業等を活用するのはどうかと思っています。現在の小学生が歌えるようになれば将来的には完璧な人がもっと増えると思っています。

川崎駅周辺では、ミュージア川崎があることによって音楽の町というイメージが、これもつきやすいです。しかし、高津高校の周辺や私の家の周辺では、このようなイメージはとつきづらいです。今年から商業高校の方たちの働きかけによって川崎駅の発車メロディが川崎市歌になりました。けれど、川崎市民が必ずしも川崎駅を使っているわけではありません。そこで、私は、川崎駅だけでなくほかの主要駅でも使用していくのはどうかと思っています。乗り降りの多い駅で使用することによって市民の人たちにとって市歌がもっと身近なものになるのではないのでしょうか。

そして、川崎フロンターレでは、試合開始前、川崎市の歌を歌っているということを耳にしました。サッカーは川崎市民だけでなく日本中の人が見ているのでとてもよい川崎市のアピールになっていると思います。もっとアピールするためにも川崎市にはバレーボール、バスケットボールのチームもあるので、それらの試合でも使用していくのはどうでしょうか。実行するまでにはかなりの時間がかかるとは思いますが、川崎市の未来のためや市外に住んでいる人たちへの川崎市の魅力の発信材料としてとてもよいものになっていくと思います。

以上です。ありがとうございました。

市長：上條さん、ありがとうございます。とてもいい意見をいただきました。

毎年ですね、成人式の集いというのをとどろきアリーナで二十歳のお祝いをするということでやっているんですが、そのときに国歌斉唱、君が代を歌って、次に、川崎市歌斉唱というふうにあるんですね。そうすると、みんなふふって笑いが漏れるんですね。大体、知らねえしというようなそういう反応なんです。実は、これすごく残念なことだなというふうに思って、そのことを教育長さんにお話をしました。これだけやっぱり知らないというふうなのは、やっぱり今おっしゃったようにですね、学校教育の中でももっとやっていくべきんじゃないでしょうか、ちょっと教育委員さんの間でも議論していただけませんかというふうなことをお願いして、去年だったですかね、去年から川崎市内の小・中・高校にまず川崎市歌のCD、それから楽譜というふうなのを送って、今からやりましょうというふうにやっています。高津高校では歌っていないですか。ないね。どうもなさそうな反応ですね。

これから8年後、今から8年後、川崎市制100周年を迎えます。そのときに、今の小学校6年生って12歳ですから、小学生にしっかりと教えておくと8年後には成人式で歌えるじゃないですけども、なるべく子供たちのときにしっかりと教えていくことというのはとても大事だというふうに思って、今いろんな学校で、特に、小学校、中学校に積極的に教えていただいていると思います。

僕の子供も地元の小学校に行っていますけども、川崎市歌歌えるようになってました。うちの学校だけじゃないよなと思って幾つか調べてみたんですけど、結構歌っているところもあるので、そういうのがだんだんだんだん広まっていけばいいなというふうに思っています。

御提案の川崎市歌をいろんなところでということで、今紹介いただいたように、川崎市立の商業高校の皆さんが川崎駅にということでJR東日本の人に物すごい働きかけを行ったんですね。その行動力というのは大変皆さん立派でした。アンケートをあれ2,000~3,000はとっていると思います。川崎市歌にしたら皆さんどう思いますかということアンケート調査を行って、それでJRの皆さんにお願いしたんです。JRは本当は、1万ぐらいないとだめだというふうに言われていたらしいんですが、あまりの高校生たちの熱意にほだされて、よし、やろうというふうに決断していただいて、高校生の力でもって川崎市歌に変わったという、そういう実績があります。ですから、今後もそういうことはあるかもしれません。でも、それはですね、市民の皆さんの盛り上がりであるかどうかということなんですね。ですから、ぜひ、そういった運動にも力を貸してもらいたいなと思います。

それから市歌というと先週、バスケットボールのBリーグというのが開催されました。初めてのホームゲームがとどろきアリーナだったんですけど、そこでかかったのが川崎市歌です。これもですね、高校生の声だとかいう声もあったと聞いています。Jリーグ、フロンターレのときは川崎市民の歌が、Bリーグは川崎市歌というのがこの前歌われていて僕もびっくりしたんですけども、そういったムーブメントがもう少し広がっていくためにはやっぱり皆さんのような若い声をどんどん届けていただければ、ああ、Bリーグのほうもそうかな、やっぱり川崎市歌流そうかなという雰囲気になっていくんじゃないかなというふうに思います。

あと、川崎市歌だけじゃなくてですね、川崎市内の駅はいろんなところでいろんな音楽をやっています。例えば、藤子・F・不二雄ミュージアム、ドラえもんですね。その駅をよく利用される方、登戸だとか宿河原、これはドラえもんだとか、パーマンの曲に変更になりました。これも市民の皆さんの盛り上がりというか、こういうふうにしてくださいということに対して、小田急だとかJRとか、JRですね。JRのほうで応援してくれたということもあるので、ぜひ、そういうふうな形を行動に結びつけていただけると僕もうれしいなと思います。御提案ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

続きまして、中島美季さん、発表をよろしく願いいたします。

中島さん：私は、生鷹さんの話と少しかぶってしまっているのですが、通学時に感じた交通の安全面についてお話をさせていただきたいと思います。高津高校の生徒はみんな駅から通っていて、南武線沿いの道路を多く利用しています。その道路はバス通りになっていたり、高速道路の入り口が先にあるためか、大きなトラックや車が通ったり、交通量は多いほうなんではないかと思います。ですが、途中から道幅は狭くなり、片側は歩道がなくなったり安全面に対して十分ではないと感じました。そして、ほかにも新城の方向から自転車を利用して通う生徒も少なくありません。踏切や高速道路のせいか歩道と車道が曖昧になっているところがあります。高津は比較的ほかの区に比べて自転車の交通量が多いと思います。交通ルールを忠実に守っていても危険な箇所は多くあると感じました。交通ルールを少しはわかっている高校ならまだしも、久本小学校の生徒や高津中学校の生徒も通学路として多く利用しています。小さな体で車体に当たるような事故があったらとても危険だと感じました。

実際に、私も、経験したことがあります。バスやトラックの車体が体のすぐそばを通過し、とても驚いたことを覚えています。ほかにも路上駐車をしている車がこの道路のところを塞いでしまい車道に出て通らなくてはいけなくなってしまうこと。自転車と接触しそうになってしまうこともありました。こんな経験は私だけでなくほかの生徒もたくさん経験していると思います。

このようなことから、通学路になっているにもかかわらず、安全面の設備がなっていないのではないかなと感じました。安全な通学路をつくるためには道幅を広げ歩道をつくるのが最適だとは思いますが、南武線が通っていたり、お店もたくさんあったり、それは難しいことだと私にもわかります。ならば、もっとわかりやすく車、電車、歩道、歩行者が区別されているような道をつくることやガードレールを設置することだけでも今よりも安全に通ることができるのではないかと感じました。事故がなく地域住民の方や生徒が安全に通れるような道をつくるためにも改善が必要だと思ってお話をいただきました。

以上です。ありがとうございました。

市長：中島さん、ありがとうございます。

学校の前の道路ですから、すごく毎日通って、それも学校がたくさんここにあるので心配も物すごくわかりますし、その中で道路を広げるのってなかなか難しいよねというふうなこともわかっていたら、本当に理解していただいてありがたいというふうに思っていますが、御指摘のとおり、すごくやっぱり車の通りも多いですし、子供の数も多いという意味では物すごく重要視しなければならない道路だなというふうに、こう思っています。

もともとこれ道を広げる計画というのは昔あったというか、今も先ほど言った計画は決定していて、それこそ昭和20年代から決定した、拡幅するというふうな大きな道路にするんだということだったんですが、現実ではそうになっていませんし、今おっしゃっていただいたように、なかなかそれを拡幅するというのは現状では難しいというふうに思います。というのは、もう店がこれだけ通っているし、南武線も隣接しているということですから、その中で何が効果的な方法かというのをこれ考えなくちゃいけないと思います。ガードレールというふうなのは、今、皆さん歩いてるからよく御承知のとおりですけど、ビルがあって商業用で使っているところがあるんで、要は、そこに車の出入りがあるのでガードレールをつけてしまうと、そこでもう通れなくなってしまうという難しさがあって、ガードレールで塞いでしまうということがなかなか難しいんですね。塞いでもいいというふうなところにはちゃんとガードレールで塞いでいます。ですから、塞がないところは今もなっていると思いますけどポールを立てたりとかという工夫をしたりしてるんですが、カラー塗装をしたりですね、もう少しどういうその安全対策があるのかというのは、もう少し私も勉強してみたいと思いますし、少しでも改善につながるように努力したいというふうに思います。あまりいい答えでは

ないですね。

以上です。

中島さん：ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

続きまして、櫻井亜美さん、発表をお願いいたします。

櫻井さん：私はバスに乗るときに負担に思っているところがあります。乗りたい時間のバスに乗れないことがあるからです。前日からバスの時間を調べて時間どおりに待っているのですが、時間になってもバスが来ないことや来たかと思っても常に人が多く乗れないこともあります。朝なので道が混んでいるのは仕方がないとは思いますが、バス停に行かないと、今日は道が混んでいる日とかそうでない日なのかはわかりません。そのため学校へ遅刻しそうになったこともありました。時間どおりに来ないのであれば、バス以外の方法で行くことも可能ですが、バスが来るかもしれないという思いから動くことができません。私は、それらを改善するために2つの方法を考えました。

1つ目は、バス停に電車の駅にある電光掲示板のような次に来るバスが今どこを走っているかわかる仕組みがあれば便利だなと思いました。そうすればあと何分でバスが来るのか正確にわかるため安心して学校に来ることができるようになると思います。インターネットで調べればその情報が出てくるとは知っていますが、情報媒体を持っていない人々にとってその情報は全く意味のないものになっていると思います。だからこそバス停にバスがどこを走っているかわかる仕組みが欲しいと思いました。

2つ目は、遅延証をもっと活用できるようにしたいと思っています。バスにも遅延証がありますが、営業所までとりに行かなければならないのは時間とお金が余計にかかってしまい無駄だと思います。だから、バスの運転手さんが直接配ってくれるようにしたならばそこでの対応ができ、より多くの生徒が安心して利用できるようになるのではないかと思います。

以上です。

市長：ちょっとね、2つ目の質問のところは、何を。

櫻井さん：遅延証が。

市長：遅延証ですか、なるほど、なるほど。わかりました。

遅延証をどうすればいいという御提案ですか。

櫻井さん：バスの運転手さんがその時間に乗ったときに乗ったバスが遅延してしまったら、ちょっと営業所までとりに行かなければもらえないじゃないですか。それは、ちょっと時間とお金が余計にかかってしまってもったいないかなと思ったので、直接配ってくれる仕組みがあればいいなと思いました。

市長：ありがとうございました。

まず、最後のほうの遅延証のほうの話は率直に言ってなるほどなと思いました。何かシステム上、これ問題あるのかちょっと帰ってから調べたいと思いますが、確かにねというふうに素直にそう思いました。気づいたことなかったですけども、今どうしてそれができていないのか。かつ何か問題があるのか、調べて問題

がなければそれはぜひやったほうがいいと思いますので早速帰って調べて、また、報告したいと思います。

それから、バスがいつ来るのかわからないというのは、インターネット見ればわかるんだけどというふうなのは確かにそのとおりですね。川崎市の市営バスでは市バスナビというのがあって、携帯なんかでもすぐ見れて今どこを走っていますというのはわかるような仕組みになってはいますけども、ただ、おっしゃるようにみんなが使えるわけじゃないですよ。なので、今、御紹介のあったようにですね、バス停に表示ができるような形のバス停というのを順次、今入れています。今、市内わずかなんですけど、今10台ぐらいまで設置ができています。今後3年ぐらいかけてだと思いますが、50台ぐらいまでは進めていきたいと思いますという計画はあります。なので、順次増えていきますが、やっぱりお金のかかることなので一気に増えないんですね。

去年ですかね。大雪が降った日に僕の近所のところだったんですけども、隣に高齢者の方がずっといつバスが来るのかなと待っていると。ただ、インターネットも携帯も持ってないし、わからないというふうな形でずっとお待たせするような結果になってしまったんですね。これは、本当に申しわけないということと同時に、例えば、こういった形でバス停に見えるような形で整備はしていきますが、プラスやっぱり隣に立っている人が、いや、今日はこのネットで見たけど来ませんよとかって、そういう技術だけじゃなくて人の力というふうなものもとても必要だなというふうに思って、もし知っている人がいれば少し声をかけてあげるとかという、そういう思いやりも、ぜひ、そういう輪も広げていきたいなというふうに思います。でも、御提案のあったバス停の表示の仕方というふうな場、順次増やしていきますので御提案の趣旨に沿っているかなと思いますし、遅延証については早速調べてみます。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

引き続きまして、山城佑太さん、発表をお願いいたします。

山城さん：私が発表させていただくのは、主に川崎の環境についてです。

ある先生が私にこう話しました。川崎に来てから光化学スモッグというものを知った。自分の実家のほうにはないという話でした。私はそれを聞いて大変驚きました。私のほうからは小学生のころからあるのが当たり前のように感じていたからです。このとき川崎はほかの地域と比べて空気が汚いのではないかと感じました。そして、私なりに考えて都心に近く交通量も人口も多い上に工場の排気ガスなどもあっては仕方がないのではないかと考えました。

しかし、そのときほかの先生が、昔はもっと汚かった。今はとてもきれいなほうだと言われました。調べてみると、昔の川崎はまるで薄く雲がかかっているように排気ガスに覆われていました。しかし、今ではトラックなどの交通量の多い産業道路周辺でさえも国の基準を下回るほどにきれいになっています。今の状態まで行政や企業の努力によって環境は改善されていました。それに対して市民一人一人の意識はどうでしょうか。私は以前、仕方がないことだと思っていました。同じように仕方がないと考えている人は多いのではないのでしょうか。

川崎では今年、市民一人が一日あたりに10%ごみの量を削減する計画を策定されています。私はそれを知って無駄な買い物はしないように少しふだんより意識するようになりました。しかし、友人にそれを話すと友人はこの計画を知りませんでした。これは、地域への情報発信が不十分なのではないのでしょうか。それとも一人当たりというのは量の問題であって我々市民の協力はさほど必要ではないということなのでしょうか。

もし、私が情報発信をするのならば、アニメーションを使用して情報発信したいと思います。アニメーションであれば今後大きくなる若年層にも影響が強いですし、何よりわかりやすいと思います。しかし、自治

体の制作するアニメーションというのは正直な話、いささか退屈なものに感じてしまいます。そこで、私は、地元、溝口が舞台になった「天体戦士サンレッド」という作品を紹介したいと思います。あの作品は知っている施設や場所がかなり出ているので見ていて楽しいですし、それを利用すれば市民も身近に感じるのではないのでしょうか。

市民一人一人が協力してよりよい川崎をつくっていったらいいと思います。情報発信をもっと徹底していくべきではないのでしょうか。

これで終わります。

市長：山城さん、ありがとうございました。

すばらしい、まず、現状の計画を知っていただいております。先ほどの大都市の中でも20政令市の中では、川崎は一人当たりの廃棄物を出している量というのが実は少ないほうです。5番目ぐらいかな、なんですけど、もっとやっぱり頑張らなくちゃいけないと思っています。この前もそんな話があったんですけど、大体890グラムずつ今一人出しているらしいんですけども、（※注3）大体どこの都市でもそのあたりですね、大体1キロです。これを10%ずつ減らしていこうよということになると大分違ってくと思うので、それはやっぱり市民の皆さんに本当に理解していただく。10%というとはよくわからない、10%って余り感覚的にわからないですよ。今の生活で何をどうすれば10%を達成できるのというふうなのをわかりやすく伝えていく必要があると思うので、そのことについてもちょっと工夫をこれからもさらに改善を加えていきたいなというふうに思います。

それからアニメーションを使いたいということでもいいですね。今月の市政だよりで広報しています。川崎市で出している。今月のね、市政だよりは、いろいろ伝えたいことあったので、なかなか伝わらないと思って、1面から3面まで全部漫画にしました。何とか漫画だったら読んで理解していただけるかなというような、地域包括ケアシステムというちょっとわかりづらい言葉なんですけど、そのことの仕組みを市民の皆さんにどうにか理解していただきたいということで漫画にしてみました。

今おっしゃったその「サンレッド」でしたっけ。ね、あれもネットで見たことあるんですけど、なかなかおもしろい。地元密着型ですね。確かにああいうものと一緒にコラボするというのもありかなと思いますね。作者がどういう方なのか、僕あれですけど、恐らくこの高津区在住なんだろうね。何かそういうふうなコラボレーションできないかちょっと調べてみたいと思います。ありがとうございます。

（※注3）市民1人1日あたりに出すごみの量は、正しくは大体976グラムです。

山城さん：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

続きまして、山田芳己さん、発表をお願いいたします。

山田さん：僕が今日話したいのは、子供たちが自由に公園を使用できないことについてです。

昨今、子供たちが公園など外で遊ぶ機会が減ったというニュースをよく目にします。そして、その主な理由はゲームなどを家でしたいからです。確かに、それも理由の一つだと思いますが、本当にそれだけが理由なのでしょうか。これは、僕が中学生や小学校のときに実際に体験した話なのですが、休日や学校が終わった後に友達と一緒に野球やサッカーをしに公園などに遊びに行くと、公園に立て看板で球技禁止の立て看板が立っていたり、また、近隣の方がうるさいからここで球技をやらないでなどという注意を受けました。これでは子供たちが自由に遊ぶことができないと僕は思います。

また、最近、公園の数自体が減ってきており、子供たちの遊ぶ機会や場所が減っているのが事実だと思います。確かにここ最近、ごみのポイ捨てなどマナーの悪い人たちが増えてきてどこまで禁止にするべきかという線引きが難しくなっているのは事実だと思います。しかし、そういった一部の人のために、規則を増やし、公園の持つ、誰でも自由に遊べる。そして気軽に楽しく遊ぶことができるという機能が失われている気がします。僕は、もっと、小学生や中学生、またそれ以下の子供たちが自由に気軽に遊べる。そして、同じ高津区にもあるプレーパークのようなところをもっとあってもよいのではないかと思います。

市長さんには、これらを踏まえて改めて公園の現状を見直してほしいと思います。

市長：どうもありがとうございました。

山田さんの指摘すごくありがたいというか、とても深刻な問題なんです。実は、去年ですね。市長への手紙という制度があってですね、いろんな市民の皆さんからもうありとあらゆることに対する提案だとか、ある意味苦情だとかというふうないろいろあるのですが、その中で去年から非常に増えているのが小学生から、山田さんが言っていたことと同じような内容。僕はどこでボール遊びをしたらいいんですか。どこか教えてください。聞いたら随分と離れた公園のほうを紹介されました。あそこだったらボール遊びできるよと。でも、そこは遠過ぎますというようなそういう切実な手紙をいただいて、小学校4年生でした、男の子でしたけども。似たような手紙というのが市長の手紙という制度を通じて私のところに何枚も来ています。

それを見ていてですね、これ行政で、はい、ボール遊びだめとか、はい、ボール遊びやっていいとかとそういうふうな決まりではなくて、結局、今、山田さんおっしゃってもらったようにですね、近隣の住民の人たちの理解があるかどうかということがすごく大事なんです。ですから、今年から実は市内の3カ所の公園をモデル地区にして、そこで近隣の住民の皆さんと私たちも入ってワークショップみたいなものをやり始めました。ワークショップやって、いろんな会議をやってですね、どうやったらみんなが使いやすい公園になるかね。自分たちのルールをつくっていきましょうというふうなことで、今、取り組みを始めました。

今現状は、ボール遊びしてはいけませんとかという、してはいけないというふうに明確なルールはないんですが、実際にはそうなっている看板が出ているとかですね、そういうケースというのはたくさんあります。これは、本当に利用者の皆さんが、例えば、硬いボールでやっている隣に赤ちゃんが歩いている。これは危ないですよ。お年寄りの人たちがゆっくりのんびりしているときに隣で物すごい勢いでサッカーボール蹴っていたら危ないですよ。だけど、どうやって時間を、利用がいいのかとか、こういう使い方、こっちからこっちにどういうふうにするかという、そういう公園の中のルール決めというのが自分たちで考え出そうというふうなそのモデル事業を今やり始めたので、この結果を見て、いいふうにまとめればほかの公園にもそういうルールをどんどん適用していけばいいなというふうに思っているんです。

ですから、川崎市が、はい、これはいいです。ここは、だめですというふうなことではなくて、あくまでも住民同士でルールづくりをしていくということが僕は大事だというふうに思っていますので、今、実際、山田さんと同じように思っている子供さんたちの声から始まった、こういったモデル事業です。しっかりと結果出せるように市民の皆さんとしっかり対話していきたいと思います。ありがとうございます。

山田さん：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

それでは、最後に山川夏希さん、発表をお願いいたします。

山川さん：東京と横浜の中間地点の上、ベッドタウンとしての色が強い川崎市は他の自治体から観光目的で

訪れる人が少ないという課題があると考えます。近年の再開発によって市内でも武蔵小杉は都心として位置づけられ、商業、文化の発信地になりましたが、やはりかつてのイメージは拭えていない部分があると思います。

そこで私が提案するのは、放置されて保存状態が悪い川崎の歴史を物語る文化遺産を再興させ、市内を通る私鉄、JR各線に宣伝をし、外部から観光人口の流入を図るということです。その例として、私は、二子塚公園にあるトロリーバスを取り上げたいと思います。これは、川崎の交通の歴史を物語るものにもかかわらず、経年劣化が著しく粗末な状態になっています。まずは、これを初め区内に残る鉄道や道路網の発展に関する文化遺産を集めて一つの施設をつくり文化遺産を再興させていけたらよいと感じます。

しかし、単に、新しい施設をつくと建設費や建てた後の維持管理費が膨大になってしまいます。ですので、市民ミュージアムなどの既存施設を改修した上で拡充して文化の総合施設を設ければさらなる観光需要が高まるのではないかと思います。そういった施設ができた上で、昨今進歩が著しいSNSや地域密着型のFMかわさきなどを生かし、文化遺産をどんどんと紹介していき、より確実に、そして早く川崎市の魅力を伝えられるネットワークを確立していけばもっと発信できるのではないかと思います。そして、リピーターを発掘するために、月ごとに関連したスタンプラリーなどの一人でもファミリーでも楽しめるような体験型のイベントをコンスタントに企画し、流入を図れたら市全体が活性化するのではないのでしょうか。以上となります。

市長：山川さん、ありがとうございます。

今回ですね、テーマを出していただいたときに、今、山川さんが言われた二子塚公園のトロリーバスで実は僕知らなかったんですよ。残念なことに本当にごめんなさい。皆さん知っていた方どのぐらいいらっしゃいますか。二子塚公園のトロリーバス。お二人かな。大人の方が一人。ということで、非常にもったいないね。いや、調べてみたら、ネットで見ると結構いろんな方が来て写真撮ったりしてSNSで発信していたりするんですね。昔、1920年代、30年代、川崎のほうで走っていたトロリーバスというのがあるんです。トロリーバスの車体を二子塚公園に置いてあるんですよ。それが結構ぼろぼろになっていてというふうな話だというふうに理解していますが、これは、多分、歴史的な経緯知っているかな。この昭和40年代に町内会の方が、役員の方が、あのトロリーバスをあそこに移して集会所あたりにみんなのにぎわいの拠点にしたいなというふうに移したらいいんですよ。それは、町会が管理するというで町会がもってきたということらしいです。

町内会が所有しているということで、随分前にこれは、私も聞いた話ですが、1回改修をしてくださいと、1回きれいに、保存状態悪いので1回改修してくださいという御要望があったそうです。それで、できれば市が受けて、それならば改修しましょうかというレベルのところまでは行ったそうです。ただ、その際に、所有権が修理するのに川崎市に所有がつかますと言ったところで、いや、それは町会としては困るということでして、そこで立ち消えになっちゃったというふうな話があるらしいんですね。ですから町会の持ち物を市の皆さんの税金を使って補修するというのは非常に理屈が通らなくなるので、どっちにしますかという話がかかなり昔にあったそうです。そういう経過を経て今に現在に至っているということなので、もう一度このあたりは町会の皆さんにも確認してみたいとは思いますが、あくまでも市の持っているものではなくて町会が持っているということなので、なかなか御意向をしっかりと聞いた上で考えなくちゃいけないというふうには思いますけども。

ただ、一般論として、こういった何ていうか、歴史的な遺産みたいなものというのは、これ大切にしていかなきゃいけないし、山川さん言われたように、観光資源になると思います。例えば、高津区で言うと、橘樹官衙遺跡群ですね。川崎市としては初めての国の史跡に指定されたものですが、昔はこの橘樹郡と

いうのは今の川崎市に相当するところですけども、橘樹郡の中心地が高津区にあったということですから、いわゆる川崎市役所がすぐそこにあったというイメージですね。ああいう国の史跡になったものというのはまだまだ川崎市民の皆さんにもまだ知られていない部分が多いんですよ。ですから、ああいった歴史の重要なものを市民の皆さんに知っていただいて、見ていただいて、活用していただく、こんなプログラムをこれから、教育委員会の所管になるんですが、教育委員会と一緒に川崎市として橘樹官衙遺跡群はもっと活用していこうというプログラム、今、考えているところです。

こういったように、高津区、先ほどもお話しましたが、高津区は非常に歴史の深いエリアですから、もっとこういうように活用できるものがあるんじゃないかなというふうに思います。今回の提案も踏まえてどんなものももっと活用できるかというのを区長と一緒に考えてみたいというふうに思います。ありがとうございました。

山川さん：ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

代表の生徒さんからの発表は以上となります。ほかの皆さんの御意見をお聞きしたいところですが、残念ながら既に所定の時間となってしまいましたので、また、別の方法でぜひ御意見をお寄せください。

それでは、市長から本日のまとめをお願いいたします。

市長：どうもありがとうございました。質問していただいた方、そして、聞いていていただいた生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

どれも立派な提案、質問であったし、非常に参考になるようなものも幾つもありました。宿題ももらったと思いますし、それについてもお返ししたいと思います。僕はいつも言っているんですけど、自分たちの町は自分たちでつくっていくんだと、そういう気概が大切だよ。先ほど申し上げたように学生だからできないとかいうことじゃなくて、学生だからみんな気づいていることがたくさんあったということを改めて知るいい機会になったと思います。交通の問題を初め、やっぱり、今、自分たちが生活していて、学校に通っているからこそ気づく課題というのを町にどうやって生かしていくかというのを自分事として考えて、そして、さっきの市歌の提案の話もそうですけども、自分で行動を起こしていくということがとても大事だというふうに思います。

この話をすると長くなるのもうやめますけど、本当に今日は有意義な時間をいただきありがとうございました。これからも、ぜひ、いろんなところで市民活動をやっていたり、若い人たちの力を求めている、町内会、自治会でもそうだけど、たくさんいます。例えば、さっき災害の話になりましたけども、今、高津区の消防団が中学生の部隊というのができました。というのは、高校生の皆さんもなかなか地域にいないことが多い。いろんなところに行っちゃって。でも中学生は地域の中にいるということで、消防団の皆さんと一緒に中学生も十分、消防活動ということは何ていうかな、そんな激しいことはできないかもしれないけども、十分に役立つということで中学生の消防団できているんです。こんなふうに、ぜひ、この地域の中に深くかかわってもらってこれからも一緒に町をつくっていききたいなというふうに思っています。

今日は、本当に、総合学習の時間を使ってということでありがとうございました。心から感謝します。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

代表の8人の生徒の皆さん、本当にそれぞれしっかりとした御意見をお持ちで感心いたしました。また、

代表でない生徒の皆さんも、この暑い中で長い時間、本当にしっかりお話を聞いて参加されていたかと思えます。大変立派でした。ありがとうございました。

以上をもちまして、第24回区民車座集会を終了させていただきます。本日は御来場いただきましてありがとうございました。

お忘れ物のないようにお気をつけてお帰りください。